

CIDS 6 月期レポート

CIDS とはヨルダンに滞在するシリア避難民に対して人道支援を行うためのインフォーマルな非政治的団体である。資金はシリア難民のニーズに合わせて使用されている。活動内容は大きく分けて 2 つ、シリア避難民に対して直接的支援を行うこと、そして、サナベルが支援対象とするシリア避難民の家族に対して支援を行うことである。サナベルは非政治的且つ非宗教的団体であり、人道支援に焦点を当てていることから彼らを支援することを決めた。サナベルは、主に障害のある子どもや孤児を支援してきたが、2011 年の危機を期に、シリア人避難民に対しての緊急支援を始めた。現在、支援物資調達(安全なシェルター、食料、日用品、衣料品など)をベースに行っている。サナベルは地域支援と奉仕活動を掲げている。資金源の多くは個人や友好関係にある地域社会によるドネーションに頼っており、現地調達の出来るものを利用してシリア人家族のニーズにあった支援をすることを目指す。

概要

ヨルダン政府の発表によれば、昨年 3 月から 11 万人のシリア人がヨルダンに避難しており、4 月だけでも一日に 40~100 人のシリア人が不法でヨルダンに入国している。しかし、5 月中旬から一部の地域において一日で 300 人を超える難民が入国するようになった。不法移民の数はヨルダンとシリア国境における政府軍の軍事行動に左右され、変動が激しい(軍事行動が激しいときは難民の数は減少し、そうでない場合に増加する)のが現状である。シリアでのこのような内戦状態が続けば、ヨルダンに避難するシリア人の数は増え続けることになる。UNHCR によれば、難民登録したシリア人避難民のうち 52%はホムスから、26%はダラー、7%がハマやダマスカスから来ているという。シリア人避難民の大半はヨルダン北部やアンマンに集中している。ヨルダン北部のヨルダン政府により運営されている難民支援場所は、3 箇所(バシャブシェ、サイバーシティー、キングフセインスタジアム)あり、不法で国境越えをした人々対象としている。ここには、救済制度があり、シリア人が自立して生活できるようになったら避難所を離れられるようにしている。

ヨルダンハシュエミトチャリティー機関によれば、5 万人以上のシリア人が支援を必要としていると予測されている。CIDS はアンマン内外で 3 つの必要業務を行っている。しかし、アパート賃貸価格の高騰、男女ともに雇用機会が無いこと、子どもたちの学校への入学許可がないことなど、困難な点は多い。他にも、若い女性の早婚の問題もある。そのほか、基本的な必需品としては、食料、日用品(ガス調理器、マットレス、ブランケット、キッチン用具、生理用品、赤ちゃん用ミルク、常備薬、蚊帳)などが挙げられる。

これまでの活動

3 月に CIDS は北部の複数の NGO を訪れ、シリア人難民のニーズの把握及びローカルアクターとのパートナーシップ構築を行った。その結果、CIDS は'Help Now'キャンペーンを行うことを決めた。このキャンペーンでは Email を通してのファンドレイジング、Facebook ページの立ち上げ、ローカルビジネスとのコラボレーション、ファンドレイジンググッズの配布などをする

ことを掲げている。40 を超えるファンレイジンググッズがパートナーに配布され、たくさんのファンレイジングの協力を得ることが出来た。その結果、1 万 193US ドルが集まり、そのうち 8231US ドルはヨルダンのシリア人難民への物資配布に使われた。集まった基金は受益者のニーズにおいて物資調達に使われている。また、CIDS は車椅子購入のディスカウントなど In-King ドネーションも得ることが出来た。3 月から 5 月の間に、チーズ、ブランケット、水、マットレス、枕、ガストープ、ポット、赤ちゃん用ミルクなどの購入に使われた。

設立からこれまで、300 家族以上に支援をし、サナベルで 7 箇所に支援物資の配布、バシヤベシェの難民キャンプへの寄付、アンマン内外の 30 家族へ直接支援を行った。

今後の活動

CIDS は今後も継続してシリア人難民に支援をしていく。その中で、人道支援を行う団体とパートナーシップを結び、支援の規模を拡大していく方針である。現時点で、3 つのイベントを行うことを予定している。

6 月 30 日に、CIDS と Al-Balad シアターが主催となりチャリティーコンサートを行う。また、バザールの開催(募金集めを目的とすると同時にシリア人コミュニティが料理やアート、音楽を披露する機会を設けることも考えている)、6 月 16 日から 7 月末の間にはサナベルとの共同トレーニング(参加型ニーズアセスメント、心理サポート) を行う予定である。